



■4月に新たに自治会が1つ設立され、自治会連合会に加盟しました

JR東中神駅北東の、開発中の「もくせい」の杜」に、新たに「昭島法務自治会」が設立されました。

加入世帯は241世帯で、自治会該当地域は国際法務総合センター職員宿舎です。

これで、昨年の新規設立自治会2つと合わせて、新しい仲間が3つ増え、昭島市の自治会は“98”になりました。



■5/26 第60回定時総会 開催

第60回昭島市自治会連合会定時総会が5月26日(土)開催され、平成29年度の活動報告、収支決算報告・監査報告／規約一部改定／平成30年度役員選出／平成30年度活動方針・事業計画・予算の議案を提案し、すべて承認されました。

■自治会会員特典の協力店一覧第5版を配布します



- 自治会会員特典の協力店一覧第⑤版が出来ました。各自治会役員がお届けいたします。
 - 自治会会員としての目に見えるメリットを！との要望に応え、都の助成金を活用して4年前から、自治会会員証「ごきんじょ(互近助)カード」を使って、約100店舗の協力店のご厚意で実施しています。活用ください！
- ※会員証を無くされた方は各自治会で再発行できます。

■東京2020オリンピック・パラリンピックと自治会について

2年後の2020年には、いよいよ、東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。今から54年前の1964年、東京でアジア初めてのオリンピックが開催されました。当時の東京オリンピックは、私たちに、また将来の日本を担う若者たちに、大きな意義と希望を持たせてくれました。それは、敗戦19年目に於いて、世界に向けて日本の復興をアピールすることができ、大会に合わせ、東京には、首都高速道路や東海道新幹線が開通し、東京の都市機能が飛躍的に発展すると共に、日本の高度経済成長の足掛かりを与え、日本に活気を与えました。自治会も「地域住民全員参加時代」で地域の発展やコミュニティに大きく影響を与え、そして、大会では、日本人選手の活躍は目覚ましく、国民を熱狂させたことは、今でも鮮明に記憶に残っています。オリンピック後は、日本にスポーツが生活の一部になるきっかけにもなり、また自治会においても行事や活動に多くのスポーツが取り入れられ、今や自治会の親睦・ふれあいの場になっています。54年前の、東京オリンピックの功績は、都市の発展や経済成長のみならず、このように、自治会にもスポーツを普及させ、自治会を大きく変えました。「TOKYO 2020」大会には、昭島市自治会連合会から、地域の自治会からみんなで成功を応援しましょう！

魅力のある自治会を目指して



昭島市自治会連合会
会長 中島岩雄

自治連の仕事をして7年となり、僭越ながら、この度会長職をお受け致しました。

会長としてこの組織をどうしていくか、時代にあった自治会・昭島自治会連合会はどうあるべきか、思うところを纏めてみました。

1. 自治会と自治会連合会の役割

自治会・町内会は小学校が制定された明治の初めに発足し、大正、昭和、平成とその役割を変えてきています。戦時中は暗いイメージを与えた時もあったようですが、戦後復興期には子供達が増えたこともあり、子供会と自治会が地域で大活躍の時代でした。その後、個人尊重の意識が強くなり、隣近所の関係が希薄になった結果、自治会・町内会は、衰退期に遭遇しています。この傾向は日本全国で田舎から都市部まで同じです。もちろん、超高齢化や人口減少の影響もあります。しかし、今こそ会員の為になる、喜んでいただける、・防災の備え・子供や高齢者の見守り、・楽しいまつりなど、時代にあった活動をしなければいけないと思います。

しかし、それを実施するのは、あくまでも単一自治会・町内会であり、行動する会員さん、役員さんの心意気、モチベーションに依存しています。即ち、**主体は各自治会・町内会の現場にあります。**

自治会連合会は、自治会リーダーの方々(会長や役員の方々)のモチベーションを維持、向上の手助けをする役目があります。現場が困っていること、悩んでいる声を聞き、声を拾い、自治会・町内会では対応し難いものを課題化し、自力もしくは行政との協働で解決する。そのことで、現場がやり易くなる環境を整えるという役目を担っていると思っています。

2. 自治会・自治会連合会の運営

自治会・自治会連合会の運営には、老若男女を問わず、多くの多様な意見が反映されるべきです。何時でも、どこでも建設的意見を出し合い協議できる雰囲気大切です。「和而不同」をいつも念頭に、皆さんが活発に意見交換できる場を創ってゆく事が肝要です。

自治会内だけでなく、社会福祉協議会、消防、警察、行政とも友好的に協働し関係者の思いを聞き、すり合わせながら、最大限協力し合っ**て会員(市民)のための活動や運営に徹していきましょう。**

また、粘り強さも大切な要素だと思います。自治会のことは民間会社の例のように直ぐ改善、改革という訳にはいかないようです。何年かけてもやり遂げる辛抱が必要だと感じています。

3. 自治会・自治会連合会の将来

時代が変わっても、人は“つながり”の中でしか生きていけないと思います。これは老若男女を問わず同じです。この厳しい時期にこそ、若い世代に自治会に参加し、活躍して貰いたいと思っています。先輩が若い人を盛り立て行動してもらう、失敗は先輩がカバーする、そんな雰囲気の中かで自治会は後世に伝えていけるのではないのでしょうか。

“加入促進推進月間”のための活動事例紹介

活動事例1. 八清親和会の“会員退会の歯止め”と“加入促進活動”

自治会の退会の歯止め、加入活動も、これからは時代と向き合い、時代の流れを読む活動が必要です。即ち旧態依然の取り組み方ではなく、会員の声を聞き、声を拾い、会員の力を借りる活動に変わることです。

八清親和会も6年前、まず、会員を増やすことよりも、減り続ける会員に「歯止め」を掛ける。即ち“出血（退会=多い）を止めなければ、いくら輸血（新規入会=少ない）をしても、自治会の体力が弱っていく（会員の減少で衰退）”ことを考え、退会の歯止め活動を最優先にスタートさせました。

そのためには、如何に行事や活動に多くの会員が集い、会員が一体感になれる「楽しい、魅力ある自治会」にすることができると考え、多くの会員が行事や活動に参加する行動が、“会員一人ひとりによる「退会の歯止めや加入促進活動」の後押し”活動となりました。そして、行事や活動の参加率向上を図るため、

PDCRサイクル

- P（広報活動による会員への周知）
- D（行事の見る・参加・お手伝い3つの楽しい）
- C（反省と次への改善）
- R（参加できない会員への結果報告）

ABC行動

- A（できるものから実行）
- B（会員の声を聞き・拾う）
- C（改善し少しずつ変える）

の、新しい手法を取り入れ、これらが会員と一緒に進める「退会の歯止めや加入促進活動」の第一歩になり、今後の改善・改革の環境づくりにつながりました。

この取り組みにより行事・活動への参加者が増え、会員の親睦・ふれあい・交流が活発化し、会員退会の歯止め防止につながって行ったのです。次は、退会原因を把握し、分析して、その対策に取り組み、改善・改革を実施したことです。

□ 主な退会者の自治会退会理由

1. 役員をやりたくない、高齢により役員を担うことが出来ない
2. 行事や活動が行われていない、行われていても参加者が少なく、楽しくない
3. 情報が伝わってこない、何をしているのか分からない、結果報告がない
4. 行事・活動に仕事で出られない、高齢や体の不自由で参加出来ない会員が、置き去りにされている。会費に見合う自治会の恩恵を受けていない

□ 退会理由による、会員退会の歯止め、加入促進活動への改善・改革実績

1. 八清親和会独自の「PDCRサイクル、ABC行動」を取り入れ、行事・活動への参加者の増加・拡大
2. 三役・区長・組長役員の業務・事務の徹底した効率化・合理化・集中化・PC化（電子化）による大幅負担軽減
3. 行事・活動を支える「イベント・サポーター制度」の導入、後に組織化
4. 役員輪番に対する「高齢者やいろいろな事情を抱えた会員世帯の役員輪番免除制度」の導入
5. 区・組の再編、統合による役員的大幅削減（区長15名⇒8名、組長38名⇒34名）ならびに、区長20年以上／1回、組長8～15年／1回への仕組みづくりによる、輪番対象者の負担軽減
6. 広報改革による、会員との距離の大幅短縮（10～14日／回の情報発信）

未加入会員への加入促進活動は、これらの活動実績を土台にして、昨年より活動を開始しました。取り組み方法は、会員皆に「加入勧誘員」になってもらう、総会で「重点活動計画」に取り上げ、お隣近所を良く知っている、会員の協力による活動にしました。

- ・未加入世帯への行事参加案内チラシの配布
- ・他地域からの転入してきた未加入世帯
- ・昔から地域に住んでいる未加入世帯
- ・何らかの事情で退会した未加入世帯

会員・区長・組長の力を借り、情報を貰ったりあるいは、接触する必要資料を提供したりして、戦略を立て、時間を掛け、継続した活動をする。そのためには、如何に住んでいる地域や自治会を、会員一人ひとりが誇れるように、自治会や地域の楽しさ、魅力を一つ一つ掘り起こし、皆で自治会をPRすることから始め、加入促進活動につなげていく活動を続けています。先ず、役員や会員の皆さんが自治会をPRすることから始めませんか！

加入促進活動には「特効薬」はなく、地道な活動の積み重ねです。



活動事例2. 10年間で会員が31%増加した「中神駅前親交自治会」

会員数119世帯の商店・戸建・小規模マンション住民混在の中神駅南側界隈の自治会です。平成29年度までの10年間で89世帯→117世帯（31%UP）増加しました。尚、平成30年度は、さらに119世帯へ増加しています。

- 10年間行ってきた会員を増やす改善活動は、
- 三役の若返りを進めて平成30年は、年齢40歳台～62歳の男2、女3名
 - 役員は基本1年の輪番制、但し、決して無理強いはいしない。ハート会員制度
 - 自治会員と青年部員の2重登録、会費も別会計。
 - 青年部員とは：三役を助ける実行部隊、年齢制限無し、こちらは70歳台の若者も多い。自治会員でなくとも仲間に。また、会員で他地域へ転居し、当自治会を離れても、希望者は“青年部員”として残り付き合いは切らさない。
 - 近隣の3つの自治会で、行事の一部を共有、付き合いの範囲を広げる。
 - 新規小規模マンションへの加入活動は、市と共にまず開発業者へ、仲間化へは気長に、10年間。
 - 行事の経費が増加しているため、→東京都の補助金利用と資源回収の活用。

■自治連・市も“加入促進推進月間”の、自治会の加入促進活動を支援・応援

自治連の“三つ折り自治会加入案内パンフレット”を、すでに使用している自治会、まだ使用していない自治会、パンフレットがあることを知らない自治会に提供します。自治会の加入促進活動に活用してください。また、市も“加入案内パンフレット”を作成し、自治会の加入促進活動を応援しています。

